

2023年度見学会 in 富山

2023 Field Tour in Toyama

秋月 有紀
Yuki Akizuki富山大学
University of Toyama

キーワード：景観、工芸美術

Keywords：landscape, applied fine arts & crafts

1. 概要

2024年2月17日(土)～18日(日)にかけて、美的感性研究会(以降、SIGAAS)発足初めての見学会を富山で実施した。参加者は16名で、SIGAAS主査・幹事6名、SIGAAS会員・一般8名、学生スタッフ2名であった。2024年元旦に能登半島地震が発生し、富山県下でも被害があったため、見学会開催の実施については関係各所と密に連絡を取って被害状況を確認し、参加者に最終意向調査を行った上で開催を決定した。前の週には富山市内でも降雪があったが、見学会両日はとも天気が良く、特に18日の午前中は立山連峰がくっきりと見える快晴であり、最高気温も16.7度と町並散策には最適状態であった。

1日目は富山駅前にある大学コンソーシアム富山の研修室1をお借りして、12:30から受付、13:00-14:00に公開研究会を開催して、富山のコンパクトシティ形成の経緯や景観の見どころについて紹介した。その後小型バスで移動し、高岡市内にある国宝寺院と金属加工企業2社を訪問した。19:00頃に富山市内に戻り、市内の居酒屋で夕食を取りながら情報交流会を開催した。

2日目は富山エクセルホテル東急のロビーに集合し、8:00-11:00の3時間をかけて八尾・内川の町並景観を視察した。11:30に岩瀬浜にある明治44年創業の老舗料亭松月の各部屋を見学させて頂き、坪庭の見える個室で昼食を取りながら2日間に渡る見学会を振り返り、13:00に解散した。一部の方々はそのまま岩瀬の町並みを散策した。

なお見学会の様子は本会の下記サイトで公開されている。<https://color-science.jp/society/240217report/>

2. 公開研究会

SIGAAS主査の川澄未来子先生(名城大学)より研究会の説明と本年度の活動報告が行われた後、秋月から「北陸新幹線を核としたコンパクトシティの形成」について、林英光先生(愛知県立芸術大学名誉教授)から「富山の景観の見どころ」について、それぞれ20分の講演があり、活発な質疑討論が行われた。司会は

秋月が担当し、見学先から提供された資料の確認を行った。

3. 勝興寺

勝興寺は浄土真宗本願寺派の寺院で1471年に砺波郡に創建されたが、一向一揆の旗頭として威勢を誇っていたため織田方の武士によって消失、1584年に現在の地に伽羅を再興した。江戸時代は加賀前田家との密接な関係から広大な伽羅を築き、境内には2棟の国宝(2020年指定)と10棟の重要文化財(1995年指定)建築物を備えた、近世真宗大寺院の伽羅の様相を今に伝える貴重な文化遺産となっている。詳しくは関連情報掲載サイト1を参照されたい。

今回は学芸員の高田克宏氏に解説して頂きながら、非公開の経堂(重要文化財)と本堂(国宝)の2箇所を見学した。本堂の外観は落ち着いた佇まいだが、入口から本尊を祀る内陣に進むにつれて豪華絢爛な内装となり、特に内陣の格天井や梁・柱は極楽浄土を描いた彩色画が施されている。一方経堂は、寄棟造の禅宗様式の建物の中央に大形で極彩色の八角輪蔵が備えている。当時の色彩をそのまま修復せずに残しており、寂びた風情を醸し出しながらも当時の鮮やかな様相が想像できた。

4. momentum factory Orii²⁾

高岡の銅器づくりは、仏像・銅像・梵鐘など含め国内シェアの9割以上を占める高岡を代表する伝統工芸である。これらは分業制で展開されており、momentum factory Oriiは1950年に創業した銅器着色を専門とする企業である。金属素材が持つ腐食・錆びの特性を、薬品や炎をコントロールして人為的に発生させ、鮮やかな色彩や独特の風合いを生み出す伝統発色技法を用いている。

当日は銅の天板に様々な着色が施されたテーブルに椅子を並べた2F会議室で、折井宏司社長が高岡の銅器産業やオリジナルの発色技法、自社製品について紹介された。その後、米ぬかと薬品でオリイブルーを銅板に着色する実演を含め、様々な工程について見学し

た。有機的で唯一無二の着色は職人一人一人の感性によって生み出されるもので、最近では建材や布地への応用展開も行われている。時間が非常にタイトだったため、本社敷地内にあったショールームを見学する時間が取れなかったことが大変残念であった。

5. 能作³⁾

能作は1916年に高岡で創業し、仏具・茶道具・花器の鋳物製造を行っていた企業で、2002年に4代目社長就任をきっかけに自社ブランド製品の開発を開始した。錫や真鍮を扱い、素材自身の特性や美しさを活かしたインテリア用品・テーブルウェア・アクセサリ等、幅広い分野に展開している。特に能作の錫は純度100%で柔らかく職人の手で一つずつ仕上げられており、手で容易に変形可能という特徴を持つKAGOシリーズは、錫の色の独特の風合いと自由なフォルムが調和して人気が高い。

2017年に完成した高岡オフィスパークにある新社屋の建物はグッドデザイン賞など多数受賞している。到着した時間が遅く工場見学はできなかったが、歴代の木型が2層吹抜けの壁全面にダイナミックに展示されているエントランスホールで、会社の歴史や製造技術について説明を受けた。ショップ横の冷水サービスで、錫のコップの感触を確かめて購入する参加者が多かった。

6. 八尾の景観

2日目の最初に訪れたのは、おわら風の盆で全国的に有名な八尾地区である。江戸時代に越中と飛騨を結ぶ街道の拠点として和紙や蚕の取引が盛んに行われた地域であり、富山市の歴史景観保全地区として、出し梁工法・出桁工法の特徴を持つ八尾型住宅の保全や普及活動を積極的に行っている。おわら風の盆のメインステージとなる諏訪町通りは日本の道100選に選定されており、伝統的建造物群保存地区に指定されていないものの、歴史を感じる魅力的な街並を形成している。

人口減少対策として誘致された八尾中核工業団地を車内から見学しながら、そこで働く人々へ提供された八尾型モデル住宅団地を訪問した。妙川寺団地は土地の起伏をそのまま活かして瓦屋根付き3階建ての低層集合住宅群を形成し、入口や中庭の法面は井田川の丸石で丁寧に石積みされている。高熊団地は2つの住戸の壁が繋がっている八尾型住宅群から成り、子供のいる世帯用の2階建て住宅と、高齢者や単身用の平屋建て住宅が共存している。これらの団地の近くには、建築協定により八尾型住宅の建設・壁面線の統一・石積を施した法面などで整備された風格ある町並の分譲

住宅群上野かざみ台があり、いずれも見学者は感心しながら視察した。八尾旧市街は井田川から山の傾斜に沿って形成されており、対岸にある市民ひろばから各住戸の背面が見えるわけだが、そこから見える景観にも気を配っている住民の方々の努力が伝わり、日本の都市景観形成における住民活動の在り方を垣間見ることができた。

7. 新湊内川の景観

八尾から約1時間バスで移動し、射水市の新湊内川地区の運河沿いを散策した。映画のロケ地としても活用されることが多い内川には、屋根の除雪のため川に向かってどの家も平入りで立ち並んでおり、日本のベネチアと評される美しい町並を形成している。さらに14もの個性的な橋が掛かっており、大理石の大きな彫刻が4つ設置された山王橋など歩く人を驚かせる。富山新港に向けて川幅が広がる辺りには、全国でも珍しい屋根付き歩行者専用の東橋が掛かっており、川面に反射した光が屋根に再反射して、私たち見学者を楽しませた。14番目の橋である新湊大橋は海面から橋桁まで47mもの高さがあり、岩瀬地区に向かって移動する橋の上から雄大に広がる立山連峰が見えた時には、車内で歓声が上がった。

8. 次の企画運営に向けた振り返り

富山コンベンションビューローの支援制度を利用したので、観光バスや施設見学にかかった費用の半額を助成してもらって参加費を安く設定することが出来た。担当者とのやりとりの中から、私も知らなかった魅力的な富山の場所を発見することができた。

参加者の多くは初めてお会いする方々だったので、2回の食事をご一緒して交流を深められたことも大変良かった。1日目の夕食は馴染みの居酒屋だいで味と値段は確認済み、飲み放題付きのコースでコストを抑えた。一方、2日目の昼食会場となった松月は富山に来て16年になる私も今回初めて利用させて頂いたが、富山名産の白エビ懷石で、素晴らしい器とインテリアの中に配置された美しい料理を堪能できた。次年度は高知での見学会が予定されており、新しい出会いを楽しみにしている。

関連情報掲載サイト

- 1) 雲龍山勝興寺 <https://www.shoukouji.jp/>
- 2) momentum factory Orii
<https://www.mf-orii.co.jp/about/>
- 3) 能作 <https://www.nousaku.co.jp/factory/>
(いずれも最終閲覧日：2024年3月20日)